

【各学科における理念】

● 文芸学部英文学科 (中学校教諭一種(英語)・高等学校教諭一種(英語))

英文学科では、英語の本格的な運用能力の修得を目指し、少人数のクラスで「聞く・話す・読む・書く」能力を高める徹底的な指導を実施し、英語学、英語文学、英語文化の3分野を学ぶ中で、英語を通して世界を見つめ、英語を使って活躍出来る、真の英語力と国際的教養を養成することを目的としている。

国際化社会において、英語教育の必要性がますます高まりを見せる現代の様相を見据え、教職課程では英語を通じて得た国際感覚を教育の場に取り入れ、国際化社会で活躍出来る生徒の教育に熱意を持って取り組むことの出来る英語科教員の養成を目指している。

【段階的目標とその計画】

<英文学科> (中学校教諭一種(英語))

履修年次 年次 時期	到達目標と計画
1年次	前期 教職課程登録前の導入段階として、1年次中に「教職に関する科目」の中でも基礎科目と位置付けている「教師論」「教育原論 I・II」を履修することにより、教職課程の意義・制度及び教員の役割等を学び、教職課程への意欲を喚起するとともに、教職への適性を自己評価し、意欲のある学生を2年次の教職課程登録に導くことを目標とする。 また、2年次以降計画的に「教職に関する科目」「教科に関する科目」に専念出来るよう、1年次には「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」を履修する。
	後期 引き続き、教職課程登録前の導入段階として、1年次中に「教職に関する科目」の中でも基礎科目と位置付けている「教師論」「教育原論 I・II」を履修することにより、教職課程の意義・制度及び教員の役割等を学び、教職課程への意欲を喚起するとともに、教職への適性を自己評価し、意欲のある学生を2年次の教職課程登録に導くことを目標とする。 また、2年次以降計画的に「教職に関する科目」「教科に関する科目」に専念出来るよう、1年次には「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」を履修する。
2年次	前期 教職課程登録を経て、本格的に教職課程のスタートとなり、「教職に関する科目」では、2年次中に「教育史」「教育方法学」「特別活動の研究」、「教育心理学」もしくは「青年心理学」を履修することにより、教科横断的に、また、教科領域と教科外領域のどちらでも必要となる教育学や心理学の理論に基づいた実践力を身に付けていくことを目標とする。 「教科に関する科目」では、主に教職課程の必修科目を中心に履修して、教科を教えることを意識しながら、英語文学・英語学・英語文化に関する教科への理解・教養を深めるとともに、英語の運用能力の向上を図ることを目標とする。
	後期 引き続き、「教職に関する科目」では、2年次中に「教育史」「教育方法学」「特別活動の研究」、「教育心理学」もしくは「青年心理学」を履修することにより、教科横断的に、また、教科領域と教科外領域のどちらでも必要となる教育学や心理学の理論に基づいた実践力を身に付けていくことを目標とする。 「教科に関する科目」では、主に教職課程の必修科目を中心に履修して、教科を教えることを意識しながら、英語文学・英語学・英語文化に関する教科への理解・教養を深めるとともに、英語の運用能力の向上を図ることを目標とする。
3年次	前期 3年次においては、「教職に関する科目」では、「英語科教育法」「生徒指導の研究」「道徳教育の研究」を履修することにより、翌年度の教育実習に向けて、理論と実践力の応用を身に付けることを目標とする。特に、「英語科教育法」では、教科の指導案の作成・教育方法、授業を行う際に配慮する点等を学ぶとともに、模擬授業を行い、翌年度の教育実習に向けて研鑽を積むことを目標とする。また、「生徒指導の研究」と「道徳教育の研究」を通じて、現代の学校現場で生じている諸問題への対処、現代の生徒に要請されている道徳、倫理等についての見識を学問的実践的に蓄積することを旨とする。 「教科に関する科目」では、主に教職課程の必修科目を中心に履修して、教科を教えることを意識しながら、英語文学・英語学・英語文化に関する教科への理解・教養を深めるとともに、英語の運用能力の向上を図ることを目標とする。
	後期 引き続き、「教職に関する科目」では、「英語科教育法」「生徒指導の研究」「道徳教育の研究」を履修することにより、翌年度の教育実習に向けて、理論と実践力の応用を身に付けることを目標とする。特に、「英語科教育法」では、教科の指導案の作成・教育方法、授業を行う際に配慮する点等を学ぶとともに、模擬授業を行い、翌年度の教育実習に向けて研鑽を積むことを目標とする。また、「生徒指導の研究」と「道徳教育の研究」を通じて、現代の学校現場で生じている諸問題への対処、現代の生徒に要請されている道徳、倫理等についての見識を学問的実践的に蓄積することを旨とする。 「教科に関する科目」では、主に教職課程の必修科目を中心に履修して、教科を教えることを意識しながら、英語文学・英語学・英語文化に関する教科への理解・教養を深めるとともに、英語の運用能力の向上を図ることを目標とする。
4年次	前期 4年次においては、「英語科教育実習」を履修し、必要な事前指導を受けた後、教育実習校に赴く。 各教育実習校において、教職員のご指導の下、教師に必要な基礎(知識・技術・態度)を履修し、教育に関する理解を深め、教師として活躍出来る素地を養うこと、また、生徒との関わりを通じ、教師の仕事は授業を行うことだけではなく、特別活動や課外活動の支援、学校の維持運営等にも及んでいることを理解し、教職への意欲を高めることを目標とする。
	後期 「英語科教育実習」での事後指導により、教育実習を振り返り、更に研鑽を積むこと、また、「教職実践演習」では教職課程の総括として、学問的知見と教育実習等を通じて得られた教科・生徒指導力、学級経営、対人関係能力という実践的見識とを統合するとともに、公共的使命に裏打ちされた教員資質の構築を目標とする。また、必修の卒業論文の作成を通じて、問題発見、分析、口頭発表という教師としての必須の能力開発を行いあわせて英語と英語教育学に関する考え方を現実の問題に適用する力を養う。

【段階的目標とその計画】

<英文学科> (高等学校教諭一種(英語))

履修年次 年次 時期	到達目標と計画
1 年次	前期 教職課程登録前の導入段階として、1年次中に「教職に関する科目」の中でも基礎科目と位置付けている「教師論」「教育原論 I・II」を履修することにより、教職課程の意義・制度及び教員の役割等を学び、教職課程への意欲を喚起するとともに、教職への適性を自己評価し、意欲のある学生を2年次の教職課程登録に導くことを目標とする。 また、2年次以降計画的に「教職に関する科目」「教科に関する科目」に専念出来るよう、1年次には「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」を履修する。
	後期 引き続き、教職課程登録前の導入段階として、1年次中に「教職に関する科目」の中でも基礎科目と位置付けている「教師論」「教育原論 I・II」を履修することにより、教職課程の意義・制度及び教員の役割等を学び、教職課程への意欲を喚起するとともに、教職への適性を自己評価し、意欲のある学生を2年次の教職課程登録に導くことを目標とする。 また、2年次以降計画的に「教職に関する科目」「教科に関する科目」に専念出来るよう、1年次には「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」を履修する。
2 年次	前期 教職課程登録を経て、本格的に教職課程のスタートとなり、「教職に関する科目」では、2年次中に「教育史」「教育方法学」「特別活動の研究」、「教育心理学」もしくは「青年心理学」を履修することにより、教科横断的に、また、教科領域と教科外領域のどちらでも必要となる教育学や心理学の理論に基づいた実践力を身に付けていくことを目標とする。 「教科に関する科目」では、主に教職課程の必修科目を中心に履修して、教科を教えることを意識しながら、英語文学・英語学・英語文化に関する教科への理解・教養を深めるとともに、英語の運用能力の向上を図ることを目標とする。
	後期 引き続き、「教職に関する科目」では、2年次中に「教育史」「教育方法学」「特別活動の研究」、「教育心理学」もしくは「青年心理学」を履修することにより、教科横断的に、また、教科領域と教科外領域のどちらでも必要となる教育学や心理学の理論に基づいた実践力を身に付けていくことを目標とする。 「教科に関する科目」では、主に教職課程の必修科目を中心に履修して、教科を教えることを意識しながら、英語文学・英語学・英語文化に関する教科への理解・教養を深めるとともに、英語の運用能力の向上を図ることを目標とする。
3 年次	前期 3年次においては、「教職に関する科目」では、「英語科教育法」「生徒指導の研究」「道徳教育の研究」を履修することにより、翌年度の教育実習に向けて、理論と実践力の応用を身に付けることを目標とする。特に、「英語科教育法」では、教科の指導案の作成・教育方法、授業を行う際に配慮する点等を学ぶとともに、模擬授業を行い、翌年度の教育実習に向けて研鑽を積むことを目標とする。また、「生徒指導の研究」と「道徳教育の研究」を通じて、現代の学校現場で生じている諸問題への対処、現代の生徒に要請されている道徳、倫理等についての見識を学問的実践的に蓄積することを目指す。 「教科に関する科目」では、主に教職課程の必修科目を中心に履修して、教科を教えることを意識しながら、英語文学・英語学・英語文化に関する教科への理解・教養を深めるとともに、英語の運用能力の向上を図ることを目標とする。
	後期 引き続き、「教職に関する科目」では、「英語科教育法」「生徒指導の研究」「道徳教育の研究」を履修することにより、翌年度の教育実習に向けて、理論と実践力の応用を身に付けることを目標とする。特に、「英語科教育法」では、教科の指導案の作成・教育方法、授業を行う際に配慮する点等を学ぶとともに、模擬授業を行い、翌年度の教育実習に向けて研鑽を積むことを目標とする。また、「生徒指導の研究」と「道徳教育の研究」を通じて、現代の学校現場で生じている諸問題への対処、現代の生徒に要請されている道徳、倫理等についての見識を学問的実践的に蓄積することを目指す。 「教科に関する科目」では、主に教職課程の必修科目を中心に履修して、教科を教えることを意識しながら、英語文学・英語学・英語文化に関する教科への理解・教養を深めるとともに、英語の運用能力の向上を図ることを目標とする。
4 年次	前期 4年次においては、「英語科教育実習」を履修し、必要な事前指導を受けた後、教育実習校に赴く。 各教育実習校において、教職員のご指導の下、教師に必要な基礎(知識・技術・態度)を履修し、教育に関する理解を深め、教師として活躍出来る素地を養うこと、また、生徒との関わりを通じ、教師の仕事は授業を行うことだけではなく、特別活動や課外活動の支援、学校の維持運営等にも及んでいることを理解し、教職への意欲を高めることを目標とする。
	後期 「英語科教育実習」での事後指導により、教育実習を振り返り、更に研鑽を積むこと、また、「教職実践演習」では教職課程の総括として、学問的知見と教育実習等を通じて得られた教科・生徒指導力、学級経営、対人関係能力という実践的見識とを統合するとともに、公共的使命に裏打ちされた教員資質の構築を目標とする。また、必修の卒業論文の作成を通じて、問題発見、分析、口頭発表という教師としての必須の能力開発を行いあわせて英語と英語教育学に関する考え方を現実の問題に適用する力を養う。